

例年行われている「埼玉県小・中学校学習状況調査」が、今年も4月25日にさいたま市を除く県内全ての公立小・中学校で実施されました。この調査は、小学5年生と中学2年生を対象で、嵐山町でも小学5年生150名、中学2年生155名が対象となりました。

学習状況調査では、小学校4教科(国語・社会・算数・理科)、中学校5教科(国語・社会・数学・理科・英語)の学力に加えて、質問紙調査により学習に関する意識や生活習慣の実態を知ることができます。この調査からみえてくる児童・生徒の学力と生活の様子をお伝えすることで、嵐山の子どもたちをよりよく伸ばしていけるよう、考えていきたいと思います。

嵐山町の小学5年生

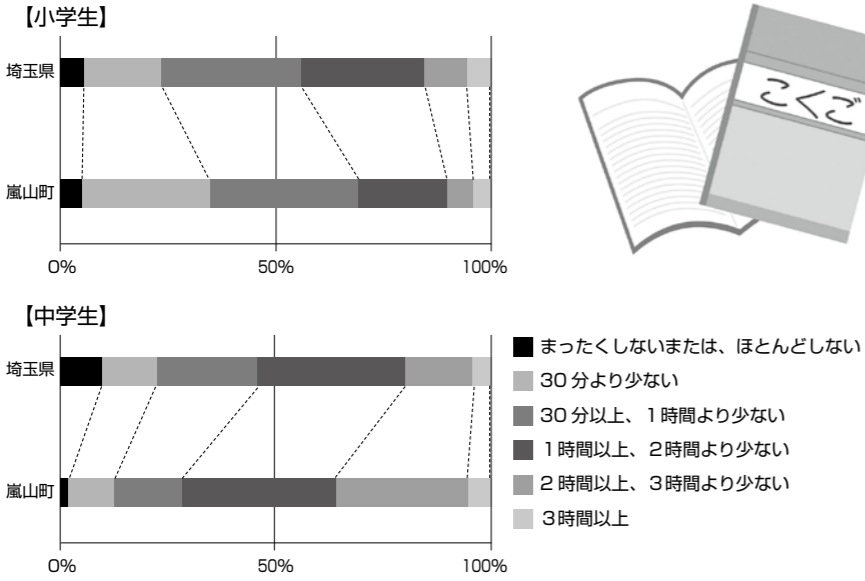


埼玉県の平均と比べた4教科の結果を見ると、どの教科にも課題があることがわかりました。学習への取組は、個人差もあり、ひとり一人の課題にも対応しなければなりません。町全体で力を入れるべきこともはっきりさせていく必要があります。

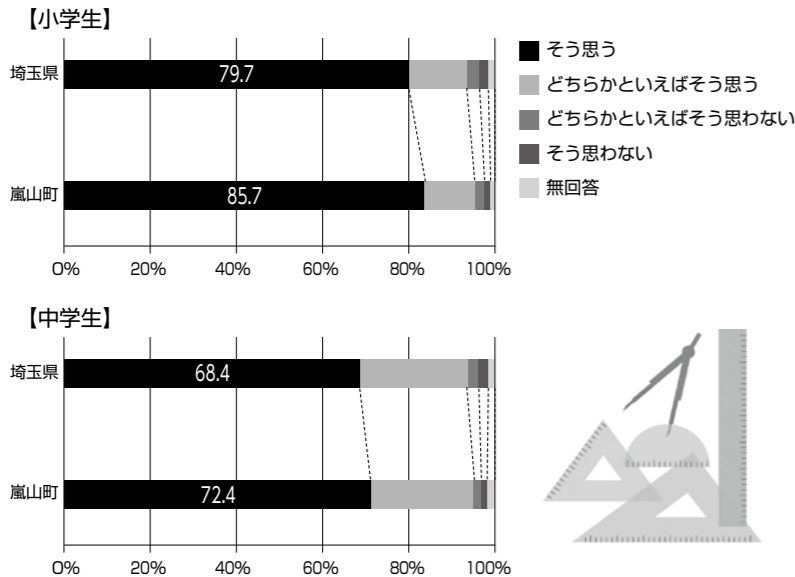
国語

昨年課題であった「書くこと」は、県平均に近づくことができました。「聞く」問題も比較的よくできましたが、「読むこと」と言語事項については課題です。漢字の習得は、日々の取組が大切です。毎日時間を決めて取り組み、定着を図ることが必要です。また、文章の読み取りは、日頃から本や新聞をどれだけ読んでいるかで違ってきます。ただ読むだけでなく、感想を書いたり、考えたことを人に話したり、することも必要になってきます。

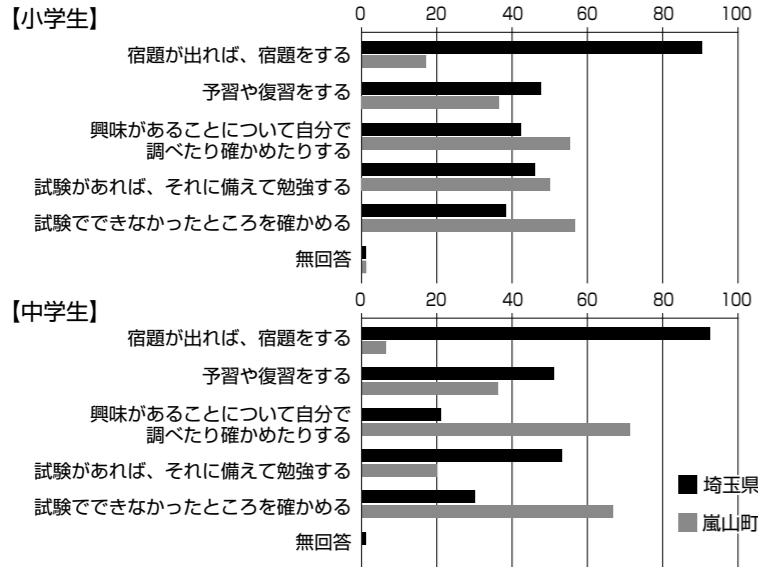
【資料1】家庭での学習時間



【資料2】勉強は大切だ



【資料3】ふだん家庭でしている勉強はどれに近いか



社会

地理的分野・歴史的分野共に大変よくできました。細かい内容から見ると、資料やグラフの読み取りがまだ苦手なようです。

数学

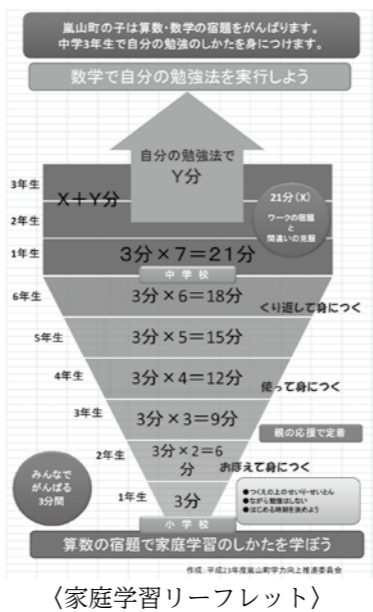
数学も、全ての内容・観点ですばらしい結果となりました。特に昨年課題であった「数と式」「関数」が県平均を5ポイント以上上回っています。数学への関心・意欲・態度も大変高くなっています。

社会

4年生で見学した浄水場の働きについては、よく理解できており、体験学習の効果が現れています。一方で、地図記号の読み取り、八方位、都道府県の名称と位置等、基本的な知識をもっとしっかりと身につけなければならぬことがわかりました。

算数

「図形」、特に平行四辺形の作図や角度の測定はよくできて県平均を大きく上回りました。しかし、「数と計算」「数量関係」は、県平均を10ポイント近く下回り、大きな課題です。一人ひとりがどこでつまづいているのかを確かめ、補充学習の必要があります。基礎基本をしっかり身に付けて、苦手意識を持たずに中学校へ進めるよう、家庭学習リーフレットにあるように、毎日の家庭学習を欠かさないことも大切です。



理科

昨年度も課題の多い教科でしたが、今年も全ての内容と観点で県平均を下回っています。気温の正しい測り方や電池のつなぎ方等、今後の学習の基本となる内容は、もう一度定着を

理科

第1分野、第2分野共に県平均を上回りました。問題別に見ると、砂糖水の濃度を求める問題、オシロスコープに示された音の波形の観察から音の大きさと高さの変化を推測する問題が、もう一步というところでした。今後一人ひとりが関心・意欲をもって学習に取り組んでほしいです。

英語

昨年も英語はともよかったです。今年さらによい結果です。特に関心・意欲・態度のポイントがとても高く、今後の学習への取組も期待できます。応答文を選ぶ問題がとてよくでき、コミュニケーション能力に小学校からの外国語活動の成果が見られます。

図っていかねければなりません。同時に、日常生活の中で自然事象への関心を持って生活することも大切です。

質問紙調査

質問紙調査の結果、「近所の人に会ったときは、挨拶をしている」「学校のきまりを守っている」「人の気持ち分かる人間になりたい」という回答が多く、県平均を上回っています。地域の方々のご協力もあり、礼儀正しく、心優しい子どもたちが育っています。

一方で、「学校に持つていくものを、前日かその日の朝に確かめないことが多い」「学校に行く前に朝食をとらないことが多い」と回答した子どもの割合が高く、持ち物の準備、朝食の摂取等、基本的な生活習慣が身に付いていないことが、今回の学習面の結果に現れています。「学校が好き」「勉強が好き」「勉強は大切」と考えている5年生は、県平均より多くなっています(資料2)。子どもたちが学ぶ喜びを味わえるよう、学校・家庭・地域が一緒に支援していければと考えます。

嵐山町の中学2年生



今年の中学2年生は、授業中落ち着いて学習に取り組み、資料1からも分かるように、家庭学習にも意欲的です。その結果、5教科全てが県平均を大きく上回り、昨年までの課題を全てクリアする形となりました。また、菅谷小・中学校を中心に、町をあげて小中一貫教育を推進してきた成果が、中学校で実を結んでいます。

国語

全ての内容・観点で県平均を上回っています。特に昨年度に引き続き「書くこと」は大変よくできました。漢字の学習をもう少しがんばれば、言う事なしの結果です。読書への取組も昨年度に比べ向上し、県平均を上回ったことも、よい成果に結びついたと考えます。

質問紙調査

持ち物の準備、朝食の摂取を必ず行う割合が、県平均より5ポイント以上高く、基本的な生活習慣の向上が学習面にもよい影響を及ぼしているといえます。また、嵐山町の中学生2年生は、「勉強は大切だ」と考え(資料2)、資料3から分かるように、出された宿題をするというよりも、自分の興味・関心で家庭学習に取り組んでいます。そして、授業中分からないことがあれば、「その場で先生にたずねる」「授業が終わったら先生にたずねに行く」との回答がいずれも70%以上で、意欲的に学習に取り組んでいることが分かります。

子どもたちが、将来の夢や希望に向かって、今後も意欲を持って取組めるよう、応援していきます。